

公益社団法人 NEXT VISION
令和元年度事業報告書
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

I. 実施事業

1. 視覚障害者に対する直接支援事業（公益目的事業①）

(1) 当事者向け講座、セミナー事業

見えない・見えにくい方を対象として、リハビリテーションや社会復帰に寄与するような有益な情報を提供するための講座やセミナー等を開催するほか、見えない・見えにくい方に向けて日常生活に役立つ情報を発信します。

1) 「私の見え方、見えにくさ」伝え方講座

2019年6月24日 参加者：4名

2019年8月26日 参加者：4名

2019年11月25日 参加者：4名

2020年1月27日 参加者：3名

2020年2月17日 参加者：3名

(総評)

ロービジョンの方の見え方は視力や視野の状態などにより多岐に渡り、体調や環境などに左右され、できること・できないことも異なります。そこで、本セミナーでは自分の見え方・見えにくさをまず、自分自身が理解し、それを他者にわかりやすく伝えることで適切な援助を受けられるようになることを目的として実施しました。

その結果、照明の色や明るさの工夫により、見え方に変化があることや同様の困難さを抱える人同士の情報交換の場となりました。また、受講後に具体的な合理的配慮を求めたことから適切な配慮を受けることができたという報告もありました。

本セミナーでは自分の見え方を認知し、それを具体的な例で提示することで配慮の方法が明確化されるなどの成果がありました。今後も継続して本セミナーを開講し、次年度はスキルアップや保有視機能の活用など実践的な内容も盛り込みたいと考えます。

また、「私の見え方、見えにくさ」伝え方講座を行い、支援者・家族向け講座の要望があったことから「見えない・見えにくい人への寄り添い方講座」を2. 視覚障害者に対する間接支援事業（公益目的事業②）(3) 晴眼者向け体験事業にて実施しました。

2) ビジョンパークチャンネル配信

- ① スマートスピーカーの選び方・基本編 2019/4/8 公開
- ② ネクストビジョンの目指す未来 前編 2019/4/18 公開
- ③ ネクストビジョンの目指す未来 後編 2019/4/18 公開
- ④ 高橋政代先生、ネクストビジョンの目指す未来 2019/4/19 公開
- ⑤ 落合陽一さん ビジョンパーク初訪問 2019/4/25 公開
- ⑥ 若宮正子さん×高橋政代対談 2019/4/28 公開
- ⑦ ウェラブルデバイスの解説 2019/6/10 公開
- ⑧ 音声ガイド付き家電紹介 2019/6/24 公開
- ⑨ デジタルビジョンケア：困難さ別患者問診術 2019/7/8 公開
- ⑩ We Walk 白杖紹介 2019/10/29 公開
- ⑪ 遥ちゃん来場、世代を超えた全盲夫婦事情 2019/12/16 公開

(総評)

ビジョンパークに訪問できない全国の人々にむけた情報ケアの一環として、ネクストビジョンの公式 Facebook 上でビジョンパークや学会会場からのオンライン動画配信およびアーカイブを行いました。

内容としては理事による理念共有にはじまり、異分野の著名人とのクロストーク、さまざまな ICT 端末の選び方や活用方法、利用者との対話等となりました。11 回の配信において、のべ 8140 回の動画の視聴がありました。落合陽一さんや若宮正子さんなどの著名人の回は視聴回数が多く、より多くの方に情報を届けるためには今後も異分野の著名人との対話企画等も含めて情報発信をしていく必要性があると感じています。

3) iPhone・iPad 活用ラウンジ

2019 年 12 月 9 日 参加者 4 名

12 月 16 日 参加者 2 名

2020 年 1 月 27 日 参加者 4 名

2 月 10 日 参加者 4 名

(総評)

これまでロービジョン外来の一環として行なってきた iPad や iPhone の使い方、活用方法紹介を外来の枠としてではなく、東大で実践してきた参加者が交流するスタイルのラウンジ形式でビジョンパーク内において実施しました。毎回数名の参加者があり、少人数ならではの交流できる楽しみも提供することができました。

今後はより多くの方が参加できるようにリアルとオンラインを併用して場所に依存しない形で情報交流ができる場の提供を行なっていく予定です。

(2) 当事者向け体験事業

見えない・見えにくい方を対象として、スポーツや映画鑑賞など様々な文化体験をしてもらい、晴眼者と同じように趣味や生きがいを見つけて社会生活を楽しむ機会を設けることで、見えない・見えにくい方の社会復帰、社会の戦力化を支援する活動等を行います。

1) クライミング

2019年4月	12回(水、金、土)	参加者 163名
5月	12回(水、金、土)	参加者 63名
6月	12回(水、金、土)	参加者 126名
7月	12回(水、金、土)	参加者 111名
8月	12回(水、金、土)	参加者 79名
9月	12回(水、金、土)	参加者 53名
10月	12回(水、金、土)	参加者 40名
11月	14回(水、金、土)	参加者 24名
12月	11回(水、金、土)	参加者 28名
2020年1月	11回(水、金、土)	参加者 27名
2月	10回(水、金、土)	参加者 19名
3月	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止	

(総評)

人と情報、人と社会、人と人がつながるビジョンパークのシンボルでもあるクライミングウォールを使った運動処方イベントです。参加された人の満足度は非常に高い本企画ですが、参加人数の減少があるため最適な開催頻度等を開院以降検討してきました。

一方で運動を処方することで救われた視覚障害者も多くいるため、規模の変更や修正を定期的に行いながら本企画を通して運動することの大切さと楽しさを伝えて行く予定です。次年度では体幹トレーニング等とも連携するなど、他の企画との連携をとって、参加者が増える試みを行なっていく予定です。

2) 体幹トレーニング

2019年7月8日	参加者 11名
8月26日	参加者 26名
9月9日	参加者 14名 ※遠隔開催
11月25日	参加者 16名
12月9日	参加者 17名
2020年1月20日	参加者 19名
2月10日	参加者 18名
3月	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止

(総評)

見えない、見えにくい方は運動の機会が減り、不安を感じるが多くなりますがビジョンパークで実施する体幹トレーニングはイスに座ったまま行うので、安心して参加することができます。白杖を使って歩行されている方は片方の腕を常時使用することから体のバランスを崩すことがあり、体幹を整えることでより安全に楽に歩くことができるようになります。また、参加者には高齢の方も多く、段差でのつまづきや階段昇降を安全に行うためにも足腰だけでなく、体全体の筋力をバランスよく整えることが重要です。本トレーニングは年齢や性別に関係なく、どなたでも短時間（30分）で行える体幹トレーニングとして親しまれており、心と体の健康維持・増進の役割を担っています。

3) 副音声ガイド付き映画上映体験会

2019年4月（2回）「DESTINY 鎌倉ものがたり」	参加者	20名
5月（2回）「DESTINY 鎌倉ものがたり」	参加者	12名
6月（2回）「ひまわりと子犬の7日間」	参加者	14名
7月（1回）「ひまわりと子犬の7日間」	参加者	7名
8月（2回）「となりの怪物くん」	参加者	14名
9月（1回）「となりの怪物くん」	参加者	8名
10月（2回）「こんな夜更けにバナナかよ」	参加者	8名
11月（2回）「こんな夜更けにバナナかよ」	参加者	10名
12月（2回）「名探偵ピカチュウ」	参加者	2名
2020年1月（1回）「体操しようよ」	参加者	8名
2月（2回）「体操しようよ」	参加者	4名
3月	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止	

(総評)

見えにくく、見えなくなると映画が楽しめない、家族や友人と映画館に行っても内容がわからないので行かなくなったという声が多く聞かれます。そこで、ビジョンパークでは見えない、見えにくい方だけでなく見える方（ご家族や友人）と一緒に映画を楽しんでいただけるよう、音声ガイド付き映画を体験していただきました。情景や登場人物の動きを音声により解説されるので、見える方からも内容がわかりやすいという感想をいただきました。ビジョンパークで音声ガイド付きの映画を体験されたことで、映画館へも足を運ぶなど外出の機会が増えた、あきらめていた映画鑑賞がもう一度できてうれしいという声をいただきました。

映画鑑賞ができる、ということだけでなく映画がきっかけとなって活動の幅が広がり、できることを増やす、できることに気づくことで見えない、見えにくい方の生活の質の向上につながっていると考えます。

(3) カウンセリング事業

見えない・見えにくい方の生活を多角的に支援するため、見えない・見えにくい方を対象とした座談会・相談会を開催し、社会資源の活用方法や補助具等に関する各種情報提供し、患者同士のコミュニケーションの場の提供等に取り組みます。

1) 「ロービジョンの集い」の開催

内容：見えない・見えにくい当事者を中心にご家族や支援の専門家などが集まり、日常生活での困りごとや情報の共有を行うほか、誰もが気軽に相談ができる集いの場を提供。

場所：神戸アイセンタービジョンパーク

対象：視覚障害者、一般 全11回の総参加者数：136名

時期：月1回 計11回

① 「AIスピーカーで快適ライフ 私たちの生活はどう変わる？」

日 時：2019年5月23日（水）10:00～12:00

参加者：11名

② 「こころとからだの健康を考える集い」

日 時：2019年5月28日（火）14:00～16:00

参加者：9名

③ 「スマホ・タブレット活用法」

日 時：2019年6月25日（火）15:00～16:30

参加者：14名

④ 「将来の夢や進路を考える集い」

日 時：2019年7月30日（火）14:00～16:00

参加者：7名

⑤ 「スポーツやレクリエーションで心も身体も健康に！」

日 時：2019年8月26日（月）10:00～12:00

参加者：22名

⑥ 「家族や趣味を楽しむ集い」

日 時：2019年9月24日（火）14:00～16:00

参加者：18名

⑦ 「見えなくても見えにくくても楽しめる旅行術！♨️温泉の入り方から海外旅行まで✳️」

日 時：2019年10月30日（水）13:00～14:30

参加者：9名

⑧ 「人生を語り、楽しむ集い」

日 時：2019年11月26日（火）14:00～16:00

参加者：11名

⑨ 「ITを活用したサポートシステムあれこれ」

日時：2019年12月17日（火）14:00～16:00

参加者：15名

⑩ 「見えない見えにくい子供をもつ親の集い」

日時：2020年1月28日（火）14:00～16:00

参加者：8名

⑪ 「食事や栄養について語る集い」

日時：2020年2月27日（水）15:00～16:00

参加者：12名

⑫ 「仕事や家族のことを考える集い」

日時：2019年3月26日（火）14:00～16:00

※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止。

（総評）

視覚障害者だけでなく、その家族や友人知人が参加することが多く、ロービジョンケアや視覚障害に対する知識・情報を共有する機会となりました。また、福祉施設や支援施設、教育機関等の支援者も参加することから切れ目のない横断的な連携・支援が可能となりました。

視覚障害者の中でも、特に受障後間もない方が孤独を感じやすく、自由に話せる場所を提供することで、同じ障害を持つ人は自分一人ではないことを知り、仲間がいる安心感からこれまで「できない」と思っていたことに挑戦したり、気持ちを切り替える一助になると考えます。

また、視覚障害者の家族にとっても、日常の生活の中では出会う機会の少ない家族以外の視覚障害者、その方たちの就労や学習など生活を見聞することで、過度な保護、介助の不要性に気づき、適度なかかわり方を認識することにつながることもあります。正しく、必要な情報を得ることが視覚障害者ならびに家族・支援者双方の不安の解消につながり、最終的に自立を促すと考えます。

2) 連携カードを活用した神戸アイセンター病院との連携

1. 相談状況

神戸アイセンターでは、「神戸アイセンター×ビジョンパーク連携カード」という連携カードによって神戸アイセンター病院の医師や視能訓練士、看護師などがロービジョンに関する情報提供が必要と感じたときに連携カードを発行する取り組みを行っています。

この連携カードによって患者さんがビジョンパークで相談する機会が増えるだけでなく、連携カードを持たない患者さんがご本人の意思で直接ビジョンパークへ相談に来られるケースが増えたことが今年度の特徴と言えます。

具体的に、今年度は4月以降の半年で相談件数が420件、月平均70件（前年比40%増）となっており、相談件数が増加傾向であることがわかります。これは表1にあるように、神戸アイセンター病院からの紹介患者だけでなく、近隣の関連病院や開業医からの紹介患者様が増えていること、さらに前述のように神戸アイセンター病院を受診した患者が、連携カードにより紹介されなくても、通院の行き帰りや受診の待ち時間を活用して、自ら相談に訪れている結果と言えます。

このように、これまで福祉施設や支援施設を紹介しても支援やサービスにつながりにくいと言われてきたロービジョンケアが変化し、患者様だけでなくこれまでロービジョンケアを患者様に情報を提供したくてもできなかった医師へのサポートにもつながっていると考えます。

また、困りごとなどの相談は一度で終わるものでなく、病状の進行や患者の精神状態や生活環境の変化にも対応する必要があるため、複数回もしくは継続的な支援が必要となります。そのため、常に相談の窓口を開いているビジョンパークの存在が患者や患者を支えるご家族だけでなく医師や看護師などの医療従事者への支援にもつながります。

2. 相談期間

2019年4月4日～2020年3月31日

3. 相談内容

患者及びそのご家族、視覚障害の有無に関係なく情報を必要とする方に聞き取りを行い、適切な福祉施設の紹介、支援・サービスの情報提供など個別対応を行いました。

相談件数・相談内容は下記のとおりです。

(表1) 相談件数

(単位：件)

2019年									2020年			
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
66	71	78	72	59	74	65	63	62	70	58	50	788

3) 協力団体・機関との連携

2019年度はフロア相談を充実させるために連携する団体・機関を2018年度の12団体から21団体に増やし、フロア相談の充実を計りました。

ビジョンパークでのフロア相談業務は、その21の協力団体・機関と連携して実施し2019年4月から2020年3月の1年間で、計332回の相談コーナーを開設しました。

福祉団体、教育関係、当事者団体と他職種の専門職員が日替わりでフロアで相談コーナーを担当しており、同じ日に複数の団体が相談コーナーを開設することで、相談者が一度にさまざまな相談を受けることが可能となりました。

また、相談者だけでなく、施設間の情報交換が可能となることから情報の共有だけでなく多機関連携が深まり、ビジョンパークが「他職種連携」の場ともなりました。

ビジョンパークの通路に面したカウンターに、ルーペや音声時計、財布や爪切りなどの便利グッズを展示することで、アイセンター病院受診の患者やそのご家族が気軽に便利グッズの存在や相談機関の情報を知っていただく機会になりました。

■支援協力機関・団体と相談コーナー開催数（単位：回）

団体名	実施回数
網膜色素変性症協会（生活とピアサポート）	37
神戸アイライト協会（生活・就労相談）	44
日本ライトハウス情報文化センター（生活相談・サピエ体験）	21
日本ライトハウスリハビリテーションセンター（生活・就労相談）	9
神戸視力障害センター（生活・就労相談）	21
Gラウンジ（iPhone/iPad相談）	21
神戸市立盲学校（教育・就労相談）	20
兵庫県立視覚特別支援学校（教育・就労相談）	20
きららの会（若年層の生活・就労相談）	11
堺市立健康福祉プラザ（生活相談）	7
兵庫県立視覚障害者福祉協会（生活・就労相談）※	45
きんきビジョンサポート（生活・就労相談）	12
アイコラボ（AIスピーカー相談）	7
神戸市立点字図書館（生活相談・サピエ体験）	7
障害者就労移行支援事業所サンヴィレッジ（就労相談）	4
兵庫盲ろう者友の会（生活相談）	10
システムギアビジョン（拡大読書器体験）	24
FQjapan（e-Sight体験）※日によって予定の名前が異なるので注意	10
兵庫県立点字図書館	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	1
合 計	332

（総評）

医療から福祉へワンストップでつなぐことを目的とした連携事業でしたが、今では福祉から福祉へ、福祉から教育へ、そして就労へとネットワークが広がっています。点であった施設と施設がつながり線となり、さらに線と線がつながり面となり、多角的な支援構造ができあがってきました。今後は企業や他の医療機関ともつながることでさらにネットワークを広げ、情報を持たないことで起こる障害をなくす活動を継続します。

(4) 当事者向け調査事業

見えない・見えにくい方及びその家族に対するアンケートを通じて、見えない・見えにくい方を取り巻く実態・現状や要望等について把握することを目的とします。その分析結果は論文やホームページといったアウトプットを行うことにより問題提起し、最終的には見えない・見えにくい方及びその家族の社会活動・生活の一助となります。

1) 大阪工業大学「日本と台湾における視覚障害者の服薬に関する基礎的研究」調査協力
2019年9月17日～10月4日実施 対象者 20名

(総評)

本研究は、①が大阪工業大学が視覚に障害のある人の服薬に関する支援や工夫について、日本、台湾両国にて調査を行い、その共通点や差異を明らかにするとともに、プロダクトデザイン分野の観点から、服薬時のトラブルを軽減し、安全な服薬環境をつくる助けとなるプロダクト（製品）の創出を目指すという目的で実施されました。今後、研究・開発を重ねる段階でNEXT VISIONと連携できることがあれば、共同研究につながる可能性があります。

(5) 研究開発事業

情報化社会が進む中で見えない・見えにくい方の生活・就労支援に寄与する最新テクノロジーに関する研究開発を行い、その成果を社会還元することにより、見えない・見えにくい方の社会復帰・社会戦力化支援に資することを目的とします。

1) 視覚ダイナミックレンジテストの有効性評価

東海光学株式会社との共同研究契約を基盤として、大阪大学、新潟大学、獨協大学、慈恵医大および神戸アイセンター病院による多施設共同研究を企画、施行してきました。本年度は、その成果を第15回ASIA-PACIFIC CONFERENCE ON VISION（大阪）にて発表しました。視覚ダイナミックレンジテストは、これまでに測定されてこなかった、弁別可能な明るさの範囲をタブレットコンピュータで簡易に測定することのできる方法で、東海光学と当法人との共同特許申請を行いました。発表内容としては、主にその方法について報告し、全施設から得られたデータについての解析結果については、次年度の日本ロービジョン学会および誌上報告を予定しています。同社との共同研究契約は2020年8月までです。

2) 視覚障害者の転落事故低減を目的とした電子式歩行補助具の空間認識技術の研究開発

JR西日本あんしん社会財団の研究費助成金によって行っている九州工業大学石井研究室との共同研究です。単年度助成を2年連続で受託しています。視覚障害者安全つえの機能拡張として、杖先の前方1mの障害物または落ち込みの検知が可能で、その情報を振動で知らせるものを目指しています。本年度は、開発された振動インターフェースによる視覚障害者の検出正答率を測定する実験を神戸中央市民病院の倫理審査で承認の上、施行しま

した。本結果については、次年度の日本ロービジョン学会で報告する予定です。なお、当該研究助成金は、次年度にも得られることが決定しました。

3) HapLog の按摩手技学習への活用に関する研究→仲泊先生

資生堂株式会社からの Haplog という押圧測定器の機器貸与を受け、神戸市立盲学校との共同研究として、2020年3月末までの研究契約で行いました。押圧に応じた音響フィードバックにより、指圧時の力の入れ方を音で表現するとともに記録することで、理療教育への革新的な教育デバイスを開発することが本研究の目的でした。本年度は神戸市立盲学校の教員により職業リハビリテーション研究・実践発表大会等への報告が行われましたが、資生堂からの開発打ち切りの申し入れがあり、2020年3月で修了となりました。なお、さらに1年間は、ビジョンパークにおける盲学校教諭によるデモで使用することが認められています。

(総評)

研究開発事業としては、企業との共同研究契約に基づき、アカデミアとの連携のもと上記3種を行いました。1)は、まず共同特許申請を行い、多施設でデータ収集を行いました。目下、学会発表と論文作成を進行中です。2)は、装置の開発と被験者実験を役割分担し、毎月意見交換を行っていますが、当初の予定からは遅れ気味です。3)は、当初のフェイシャルマッサージに使用する装置をあん摩に応用するという段階で、押圧のレベルが極端に異なり、これをカバーする機器改変に時間と経費がかさんだことで、企業が手を引くという顛末になってしまいました。コンセプト自体はよいので、他のサポーターが見つければ、今後も研究を継続していきたいと思います。

2. 視覚障害者に対する間接支援事業（公益目的事業②）

(1) コンテスト事業

公益社団法人NEXT VISIONでは、特に就労に注力した事業として、「isee! "Working Awards"」を実施しています。今年で4回目となる「isee! "Working Awards"」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。今年の応募数は、27件で、内訳は、事例部門が14件、アイデア部門が13件でした。事例部門が昨年よりも1件増えた半面、アイデア部門の応募が12件減りました。審査の結果、事例部門の入賞が7件、事例部門の入選が5件でした。また、アイデア部門の入賞が3件、アイデア部門の入選が8件でした。

募集期間：2019年7月1日～10月31日

日時：発表・表彰式 2020年2月16日（日）13：30～15：30

場所：神戸アイセンタービジョンパーク

参加者：59名（うち受賞者16名、付き添い・一般参加22名、スタッフ・ボランティア21名）

内容：i see! “Working Awards “

<受賞者>

●事例部門：MIP賞3名、MSP賞2名、MEP賞1名、METP賞1名、入選5名

●アイデア部門：価値転換賞1名、環境整備賞1名、ビジネスプラン賞1名、入選8名

（2）講演、セミナー事業

支援者や一般患者団体、自治体、企業、大学等の団体からの依頼を受け、支援者や一般の方々を対象として、支援事例とその方法を広く認知させるための講演会やセミナーを実施します。また、当法人の企画でもビジョンパーク等において同趣旨の講演やセミナーを実施する予定です。講演内容としては、支援に対する提案だけでなく、拡大読書器を職場に導入したことで就労継続が可能になったというような社会復帰の事例を盛り込んで紹介します。これらの講演会やセミナーを通じ、見えない・見えにくい方の実際の生活や活躍されている様子を世の中に広く認知してもらいたいと考えています。

1）神戸医療産業都市一般公開

2019年11月9日（土）10：00～16：00

全体の来場者数は延べ約12,000人、神戸アイセンター（ビジョンパーク）の入場者数は延べ600人でした。

ビジョンパークでは機器の点字や体験、情報提供コーナーを設置し、普段、病院を訪れることがない一般市民へ眼の機能や眼の病気、視覚障害、ロービジョンケアなどについて知っていただく機会になりました。

また、通常は触れ合うことができない盲導犬との歩行体験も実施しました。

2）NEXT VISION セミナー

2020年1月19日（日）13：00～15：30

テーマ：網膜疾患 講師：三宅養三

内容：網膜は眼をカメラに例えるとフィルムに当たります。網膜は縦横無尽に張り巡らされた複雑な神経のネットワークで眼の機能を維持し、神の造った最高の臓器とも言われております。網膜の病気により視力、視野（見える範囲）、色覚、暗さのなかで見る力、まぶしさ、ゆがみ、等々の多くの視機能の障害が生じます。

網膜にはどのような病気があるのでしょうか。子供の網膜疾患や高齢者に多い網膜疾患、炎症や感染による網膜疾患、外傷による網膜疾患、遺伝性網膜疾患など様々なもの

がありますが、近年その診断や治療の発展は素晴らしいものがあります。また、これまでは治療法がなかった遺伝性網膜疾患に対してもiPS細胞を用いた網膜再生医療や人工網膜等の最先端医療も着実に成果が上がりつつあります。セミナーではこれらの網膜疾患の理解とその予防、治療についてお話ししました。

※ 3月16日(月)に予定されていたセミナーは新型コロナウイルス感染防止の観点から延期となりました。

3) ビジョンパークチャンネル配信

- ①スマートスピーカーの選び方・基本編 2019/4/8公開
- ②ネクストビジョンの目指す未来 前編 2019/4/18公開
- ③ネクストビジョンの目指す未来 後編 2019/4/18公開
- ④高橋政代先生、ネクストビジョンの目指す未来 2019/4/19公開
- ⑤落合陽一さん ビジョンパーク初訪問 2019/4/25公開
- ⑥若宮正子さん×高橋政代対談 2019/4/28公開
- ⑦ウェアラブルデバイスの解説 2019/6/10公開
- ⑧音声ガイド付き家電紹介 2019/6/24公開
- ⑨デジタルビジョンケア：困難さ別患者問診術 2019/7/8公開
- ⑩We Walk白杖紹介 2019/10/29公開
- ⑪遙ちゃん来場、世代を超えた全盲夫婦事情 2019/12/16公開

(総評)

視覚障害やロービジョンケアについての知識を全くお持ちでない一般の方を対象として、親しみやすく、自分事として捉えてもらえるように実施しました。

視覚障害と一言と言っても見え方、見えにくさはさまざまであり、見えない・見えにくいからと言ってできないことばかりではない、ということを理解してもらい、「障害」について見直す機会を提供できたと考えます。見える一般の方にも情報を提供することで、見えにくくなったときの不安や不便の解消だけでなく、現在の生活をより便利にできる道具や方法を知っていただくことができました。

(3) 晴眼者向け体験事業

晴眼者を対象として、さまざまな見え方・見えにくさを体験できる場を提供します。

- 1) 北島里枝さんチャリティーコンサート (ヴァイオリンソロ)
2019年6月20日 参加者 36名
- 2) アジサイ合奏団チャリティーライブ (二胡と古箏)
2019年6月25日 参加者 10名
8月27日 参加者 10名

11月12日 参加者 48名

3) 見えない・見えにくい人への寄り添い方講座

2019年10月28日 参加者：7名

本セミナーでは、疾患とその見え方について、またその見え方や見えにくさを実体験していただくことで参加者が視覚障害に対する理解を深める機会となりました。

(総評)

普段、神戸アイセンター病院およびビジョンパークに来る機会がない人を呼び込み、楽しみながら見え方・見えにくさを体験、情報を知る機会となるようコンサートなどを実施しました。ビジョンパークに来ることで自然に視覚に障害のある人と接したり、白杖や拡大読書に触れる機会ができ、装置の使い方や必要な理由がわかったという方もいらっしゃいました。

特に白杖は見えない人だけでなく、見えにくい人も持っていることがあまり知られておらず、時には「見えているのに見えにくいふりをしているのではないか」と誤解されることもあります。今後もコンサートや講座などを通して、ビジョンパークに来られるすべての方に必要な正しい情報をお伝えし、ご理解いただけるよう活動を継続します。

(4) 出版事業

機能改善と環境整備の両面で事例の紹介や適切な情報提供を行う観点から書籍を執筆し、全国の書店に設置・販売し、広く認知と啓発を行います。

1) 三輪書店「ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート」

(総評)

2019年4月の日本眼科学会開催に合わせ、三輪書店より「ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート（神戸アイセンター病院編）」を発刊しました。当書籍は、同学会期間内で最高売上を記録し、半年で約1000冊を販売しました。当書籍は、神戸アイセンター病院の職員を中心にロービジョンケアにおけるティップスをポケットサイズの220ページ余りに盛り込んだもので、全国のロービジョンケアを実践する視能訓練士に受け入れられました。また、一部の視能訓練士養成学校や視覚障害支援員養成施設で教科書として採用されました。

II. 法人運営

1. 理事会

第14回 令和元年5月13日

議題

1. 平成30年度の事業報告及び計算書類の承認
2. 社員総会の招集と議案の承認

3. 福場将太氏理事就任の承認
4. 競争的資金の間接経費の使途等に関する方針に関する規程の制定
5. ロービジョンフロア使用管理規程の制定
6. 理事の任期満了に伴う後任者選任の承認
7. 職務の執行状況についての報告

第15回 令和2年2月16日

議題

1. 令和2年度の事業計画及び収支予算の承認
2. 社員総会の招集と議案の承認
3. 理事への謝金支給の件
4. 白根雅子氏理事就任の承認
5. 預金口座の運用方法変更
6. 職務の執行状況についての報告

2. 社員総会

第13回 令和元年5月28日

議題

1. 平成30年度の事業報告及び計算書類の承認
2. 福場将太氏理事就任の承認
3. 競争的資金の間接経費の使途等に関する方針に関する規程の制定
4. ロービジョンフロア管理規程の制定
5. 理事及び監事の任期満了に伴う後任者選任

第14回 令和2年2月16日

議題

1. 令和2年度事業計画及び収支予算の承認
2. 白根雅子氏理事就任の承認